

選考委員プロフィール

【児童文化賞】



野上 暁（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』『“子ども”というリアル』『子ども学 その源流へ』『越境する児童文学』『子ども文化の現代史』、共編著に『こどもの本ハンドブック』『いま子どもに読ませたい本』『明日の平和をさがす本』など。



仲居 宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ポツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



山極 壽一（京都大学総長）

京都大学大学院理学研究科修士課程修了。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、現在京都大学総長。著書に『家族進化論』『「サル化」する人間社会』『京大式おもしろ勉強法』などがある。

【音楽賞 邦楽部門】



徳丸 吉彦

（聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
東京大学文学部卒業。ラヴァール大学（カナダ）より博士号。国立音楽大学・
お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学教授、京都市立芸術大学
客員教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は
『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線
音楽の旋律的様相』（仏語）、『音楽・記号・間テキスト性』（英独仏語）、
また、共編に『ガーランド世界音楽辞典7：東アジア』（英語）がある。



塚原 康子（東京藝術大学教授）

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了（学術博士）。現在、
東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、
主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』『明治国家と雅楽』、
共著に『はじめての音楽史』『日本の伝統芸能講座—音楽—』等がある。



加納 マリ（日本音楽研究家）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（音楽学専攻）修了。武蔵野音楽大学講師。
日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁
芸術祭審査委員（音楽）、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画
委員（伝統芸能）、文化庁芸術選奨選考委員（音楽）、国立劇場邦楽公演
専門委員などを務める。

【音楽賞 洋楽部門】



関根 礼子（音楽評論家）

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動をし、1981年よりフリー。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、『日本のオペラ年鑑』編纂委員、三菱UFJ信託芸術文化財団理事、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に『オペラの世界』『日本オペラ史1953～』、共著に『オペラ事典』など。



中村 孝義（大阪音楽大学理事長・名誉教授）

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会理事長や（独法）日本芸術文化振興会運営委員会委員長、（公財）ロームミュージックファンデーション、（公財）アフィニス文化財団、（公財）花王芸術・科学財団など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』『音楽の窓』など。



諸石 幸生（音楽評論家）

早稲田大学法学部卒。（財）音楽鑑賞教育振興会において鑑賞指導法の研究を行うとともに、20世紀の演奏家を網羅した『演奏家大事典』の編集・刊行を行う。その後、音楽評論活動を始め、雑誌、新聞への執筆、及び放送番組解説などを行う。著書に『トスカニーニ、その生涯と芸術』『クラシック新鮮組』『クラシック超名盤100』など。